

大分県 宇佐市 院内中央公民館

1. はじめに

平成17年3月31日、宇佐市・安心院町・院内町が平成の大合併で新『宇佐市』として発足し1年半が経過している。面積は、439.12k㎡、人口は、62,686人（7月末現在）となった。その内、院内町は市の南部に位置し、面積113.62k㎡、人口4,979人（7月末現在）で変化に富んだ山岳、溪谷等の名勝地のほか、日本一の数を誇る石橋群や龍岩寺などの文化遺産を有し、オオサンショウウオなど貴重な天然記念物が生息している。このような歴史や自然に恵まれた環境の中で「彩りに満ちた暮らしの元気都市」をキャッチフレーズに人々が元気に暮らせるまちを目指している。

2. 宇佐市公立公民館の概要

宇佐市の公立公民館は14館と18分館で構成され、院内町では中央公民館1館、地区館5館、分館1の公民館が連携を取り合いながら活動を展開している。院内中央公民館は昭和39年に設置されて以来、地域の生涯学習の拠点として活動してきた。職員は、館長（非常勤）1名、社会教育指導員（非常勤）2名のほか、兼任で職員2名と生涯教育専門員（非常勤）1名が配置されている。

3. 宇佐市院内中央公民館事業

（1）基本方針

『生きがいと心豊かな地域づくりをめざす社会教育の充実』を基本に、幼年期から高齢期までの各世代における学習ニーズに応じて、住民が“いつでも、どこでも、だれでも”学ぶことができる学習機会の提供や学習情報の拡大により、お互いに高めあえる生涯学習の振興を図る。

（2）学習プログラムの設定及び目標

公民館事業は、旧「院内町生涯学習推進長期計画」を基盤に展開している。各領域の学習プログラムの中心に旧院内町のシンボルである日本一の数を誇る『石橋』を位置づけ、文化、健康・スポーツ、土木、イベント、産業、教育、観光の8つの部門から、多種多様な学習を行いながら、従来の知的学習から感性を重視した学習、座学から実践活動へと移行を図った。そして、学習者の意欲を促すために、各領域に伝統文化や文化遺産を中心とした学習を取り入れ、その実践の中で『自治能力』に富んだ住民の育成を図ることを目標とした。

- 重点目標 ①国際感覚を養いお互いの文化を知り、認め合うこと。
- ②地域に残された伝統文化や遺産の継承。
- ③共生社会の実現をめざすこと。

4. 具体的な取組みの事例

■特色のある事例について

（1）新・こども院内国

『21世紀を担う子ども達の健全育成を図り社会の変化に適切に対応できる広い視野と豊かな創造性を生かした進取な心を育成するとともに、郷土の文化や自然とのふれあい、海外研修を通して「ふるさと～宇佐・わが町～院内」を見直すとともに国際感覚の基礎を養う。』を趣旨として、平成3年度に開設し、以来15年間にわたり継続して事業を実施してきた。

前期研修2回、海外研修1回、後期研修2回、研修のまとめ1回を活動として実施した。研修のまとめについては、年度末に公民館連絡協議会等主催で開催される『活き生きフェア・いんない』において活動発表を行っている。

平成17年度は、小学生1名、中学生9名が参加。前期研修ではふるさとについて現地研修など学習を行い、7月の海外研修では平成5年度から友好姉妹都市を締結している中国上海市南フイ区を訪れ、交流を深めた。また、8月には中国から友好交流団を受入れるなど、互いにホームステイ等を通して国際化を図ったものである。

国際感覚の基礎を養うとともに、特に『ふるさとを見つめ直す』ことに重点を置いている。



(2) ふるさと探求講座

①開催概要・・・町内には全国一の数を誇る石橋群をはじめ、多くの文化財や観光資源がある。合併後、その説明案内を求める問い合わせが多くなってきた。そこで、地域の学習者が講座学習を通して、地域の魅力を学び、院内町を訪れる方々に伝えることが出来ればと、平成16年度『ふるさとガイド養成講座』を開設した。そして、地域の人々にふるさとの宝を再確認させガイドの養成を図り、院内町観光協会に登録するとともに、現在では観光ガイドや各種講座の講師として活躍している。

②内容・・・年間5回、成人20名、年会費2,500円

- ①宇佐の文化財と産業
- ②安心院の文化財とグリーンツーリズム
- ③院内の文化財と鰻絵
- ④長洲漁港と文化財
- ⑤中津の文化財と産業

③成果と課題

これまでの公民館事業は、単発的で、学習者にとって受動的なものが多かった。そこで、中津地区公民館連絡協議会の研究に基づき、平成16年度より市町合併を踏まえ地域における人材の育成を目指す取り組みを行った。学習者に明確な目標を持たせることができる学習の場が必要であると考え、平成17年度からは「ふるさと探求講座」を開設した。現在、登録されているガイドは24名（うち6名は院内町外）で、17年度実績は50日間、のべガイド数210名で来訪者のご案内や、毎月自主的に定例会を開催し学習を進めてきた。これは観光協会等他機関との連携をとり実践を積んだ成果と思う。

今後は、この講座だけでなく、「学ぶことから学んだ」といえる人づくりの教育（自立）を、他機関と連携しながらさらにいかにして波及させていくかという課題をもって取り組んでいきたい。



石橋を中心とした事業推進図

